

- ・「正しい文＝正文」？
- ・「市場の失敗」の意味がよくわかる？
- ・コピーライティング力→売れる本のタイトルの7つの型
- ・ワンセンテンス
- ・雑談力
- ・「相づち＋要約＋質問」。国谷裕子さん：国谷さんの要約力は非常にレベルが高く、専門家の難しい話も、彼女がスッと**数センテンス**で要約すると、たちまち理解しやすくなります。
- ・司馬遼太郎は「思う」を漢字で書かない。

その古賀さんの著書の『20歳の自分に受けさせたい文章講義』は、とても説得力があり、おすすめの1冊なので、その本から引用します。

ぼくは「美しい文章」など、目指すべきではないと思っている。

いや、余裕があれば美しくてもけっこうだが、美しさよりも先に「正しさ」がくるべきだと思っている。「美文」という言葉に対比させるなら「正しい文＝正文」だ。

なぜ、美しさが不要なのか？

ひとつに、文章本来の目的が「伝えること」だからである。いくら美しい声を持っていても、発音が不正確なら会話は成立しない。聞き苦しいダミ声であっても、発音が正確なら会話は成立する。情報を伝えるために必要なのは、美しさではなく正しさである。

（古賀史健著『20歳の自分に受けさせたい文章講義』星海社）

説得力のある文章ですね。この文章に説得力がある理由を探してみましょう。

池上彰さんの文章がわかりやすい理由

なぜ、池上彰さんの解説はわかりやすいのでしょうか。

その理由を探っていきましょう。

たとえば、「市場の失敗」という経済用語について、池上さんは次の【A】のように解説しています。

【A】

アダム・スミスは自由な市場に任せればそれで経済はうまくいくと言いました。ある程度はそのとおりです。でも放っておくとマーケットが暴走してしまい、勝手に失敗してしまうことが起きるんですね。これを市場の失敗といいます。

（池上彰著『池上彰のやさしい経済学 1 しくみがわかる』日本経済新聞出版社）

とてもわかりやすいですね。経済に詳しくなくても、「市場の失敗」の意味がよくわかります。

「書く技術」として、どうしても取り上げておきたいのが、キャッチコピーを作る力、すなわち「**コピーライティング力**」です。

売れる本のタイトルの7つの型

①対比させる

- ・金持ち父さん、貧乏父さん

②『数字＋の～』

- ・7つの習慣

③割合を使う

- ・心配事の9割は起こらない
- ④疑問形にする
 - ・さおだけ屋はなぜ潰れないのか？
- ⑤命令形にする
 - ・英語はインド式で学べ！
- ⑥『～の方法』、『～方（かた）』
 - ・雑談力が上がる話し方
- ⑦2文節以下にする
 - ・聞く力

コピーライティング力を有効に使っていたのが、小泉純一郎元首相です。小泉元首相は、「自民党をぶっ壊す」「改革なくして成長なし」「聖域なき構造改革」といった短いフレーズを多用することで、支持率を上げたと言われています。

これは、**ワンセンテンス・ポリティックス**ともいわれる政治手法です。

初対面の人と1分ぐらい雑談をただけなのに、「また会いたい人」「もう会いたくない人」に分かれるのはなぜでしょうか。

それは、相手の雑談力の差によるものです。**雑談力の高い人には、「また会いたい」と思わせる何かがあります。**

雑談力を伸ばす5つのルール

- ①「相手をほめる話」「今の話」「失敗談」を話す
- ②オチのある短い話をする
- ③話題に困ったときに役立つ「気にしていた」
 - き…季節、気候 →ようやく春らしい暖かさになってきましたね。
 - に…ニュース →日経平均株価が年初来高値を更新したようですね。
 - し…仕事 →最近、仕事はお忙しいですか。
 - て…天気 →こちらに来られるとき、雨は降っていましたか。
 - い…衣装（ファッション） →シルバーのネクタイがお似合いですね。
 - た…旅 →ご家族での温泉旅行はいかがでしたか。
- ④ニュースは一步踏み込んだ情報を入手しておく
- ⑤事前に雑談のネタを仕込む

聞き上手な人は相手の話を引き出すのがうまいため、さまざまな情報を得ることができます。また、聞き上手だと話しかけられやすく、みなに好かれることが多いものです。

NHKの長寿番組『クローズアップ現代』のメインキャスター国谷裕子さんは、相手の話を聞いた後、相づち、要約、質問を続けて言うことが多いそうです。

吉田たかよしさん（元NHKのアナウンサーで、現在は医師）の著書に、次のように書かれています（引用文中の彼女とは、国谷裕子さんのことです）。

実は、彼女にはもう一つ得意としている相づちがあります。それは「相づち＋要約＋質問」です。今度、『クローズアップ現代』を観ることがあれば注意して見てください。国谷さんの要約力は非常にレベルが高く、専門家の難しい話も、彼女がスパッと数センテ

スで要約すると、たちまち理解しやすくなります。しかも、その要約したあとには、間髪入れずに視聴者が知りたいと思っている質問をズバリとするのです。

(吉田たかよし著『話し上手は「相づち」が9割』宝島社)

くり返しになりますが、「～させていただく」には、「許可」と「恩恵」が必要です。

しかし、「～させていただく」を使うたびに、その条件を満たしているかどうか確認するのは面倒です。

その手間を省くためには、やはり「いたします」による代用が有効です。

また、たとえば、「言わせていただく」という表現を使いたくなったとき、代わりに、「申し上げる」などの他の敬語で代用する手もあります。

「させていただく症候群」

「させていただく」：相手の「許可」のもとに「恩恵」を受けるときに使う表現。

ところで、作家の司馬遼太郎氏は、一部の大和言葉をひらがなで書くことにこだわっていました。井上ひさし氏の著作に、次のような記述があります。

司馬遼太郎は「思う」を漢字で書きませんでしょう。

このことについてわたし、一度、司馬さんにお聞きしたら、「《おもう》というのは、どう考えてみても、大和ことばなんだよ。これを漢字で書くのはおかしい、それで平仮名にひらいているんですよ」というお答えでした。

(井上ひさし著『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』新潮社)

先の中西氏の著作によると、「おもう（おもふ）」の「おも」は、「重い」の「おも」と同じで、心の中に重いものを感じることが「おもう（おもふ）」だということです。